

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

公明党彦根市議団： 上杉 正敏、中野 正剛

(2) 実施日：平成 29 年 7 月 20 日

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

現在、彦根市では「図書館建設基本計画」に基づき、北部に位置する現図書館を「北部館」とし、市域中心部の中央図書館を建設しさらに、市域南部地域に「南部館」を建設する3館計画である。また、彦根市を中心市とする、定住自立圏構想においても、彦根市の中央図書館を「拠点図書館」として、相互利用等様々な連携が期待されている。

(2) 本市における課題

今後、中央図書館、南部館の建設が具体化していく中で、彦根市の図書館はどうあるべきか、読書活動をどう推進していくべきかを調査・研究しておく必要がある。

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

恵庭市の図書館と読書活動について

(2) 選定地1：

北海道恵庭市立図書館 恵み野本館

選定地2：

選定地3：

【3. 調査結果】

(1) 内容

「読書の町 恵庭」として知られる恵庭市立図書館は 1990 年に図書館建設準備室が設けられ図書館基本計画が策定された。そして、市民からの要望や意見などが寄せられ、図書館が設計された、その後、全国に先駆けブックスタートを開始、市内全ての小中学校に専任学校司書の配置、夏休みの期間中の1日に「図書館開館 24 時」と称して 24 時まで延長開館を行うなど、子どもたちの読書の輪を広めようと、先進的な活動を行っている。

その後も、ブックステーションの設置、平成 25 年には「恵庭市人とまちを育む読書条例」施行、平成 26 年には恵庭市読書活動推進計画を策定、恵庭まちじゅう図書館事業の開始、平成 29 年からは指定管理者制度を導入するなど、更なる展開を図っていた。

(2) 考察

恵庭市の図書館は、恵み野本館、恵庭分館、島松分館の3館体制となっている。平成25年に施行された恵庭市人とまちを育む読書条例では「市民」「家庭」「地域」「学校」「市」それぞれに読書活動の形成・推進に取り組むよう定められており、それを基に策定された恵庭市読書活動推進計画では「生涯各期に応じた読書活動の推進と環境づくり」「市民との協働による読書活動推進」「図書館サービスの充実と適切な環境の整備」を3本の柱とした様々な取り組みが行われていた。

「生涯各期に応じた読書活動の推進と環境づくり」では、9・10カ月児を対象に絵本をプレゼントするブックスタートが実施されているが、好評を得て1歳6か月児を対象にブックスタートプラスが実施されており、読書活動に対する市民の関心が広まっていると感じられた。また、学校図書館を全て市立図書館が所管して、全小中学校（小学校8校、中学校5校）に専任学校司書を配置して、図書の内容の充実を図っていた。また、配本車が毎日図書館と小中学校間を運行して、書籍の充実と共に先生が授業で使いたい図書を必要な冊数、配本できるシステムも構築していた。

「市民との協働による読書活動推進」では、市内50カ所のお店や会社等のスペースを利用して「恵庭まちじゅう図書館」を作り、店長や経営者のお気に入りの本を展示してもらって、訪れた人が自由に読んでもらえる工夫もしていた。中にはビブリオバトルを開催している店もあり、市民にも喜ばれているとの事だった。

「図書館サービスの充実と適切な環境の整備」では、本館、分館の他にも黄金ブックステーションとかしわのもりブックステーションを設置して、図書館が所蔵している約30万冊の本が検索でき、予約・受取・返却ができるようにしていた。

他にも朝読書の全小中学校での実施、「家読」事業の推進、「子どもの読書活動を支える寄付制度」を実施しており、「子どもの読書活動を支える寄付制度」では、保育園、小学校及び中学校の図書購入費として寄付された同額を市が補助し、寄付金の倍額を配当していた。寄付額は年平均70万円あり、毎年平均で140万円が配当されていた。

今回の視察で感じたことは、図書館という建物の建設・整備も当然、重要ではあるが、それと同じくらい、読書活動の推進も重要だと気付かされた。ブックスタートも恵庭市が初めて開始して全国に水平展開されているが、恵庭市のように市民に歓迎されて、更にブックスタートプラスにまで発展している市町はどれくらいあるだろうかと考えさせられた。そして、彦根市に新しい図書館が出来るこの機会に、建物や制度を作ってそれでおしまいではなく、市民が進んで読書活動の推進に参加して「恵庭まちじゅう図書館」のような取り組みがなされるような環境を作っていく必要があるのではないかと思われた視察だった。

以上